■烏丸光廣　　多才多芸な宮廷文化人として，細川幽斎から古今伝授を受けて歌道を復興，奔放な書で「光廣流」と称される。
からすまるみつひろ
安土教会許可1579＝　　室町時代の日野家庶流の准大臣烏丸光宣の長男に生まれる。

ﾊﾞﾘﾆｬｰﾉ謁見 1581＝ 2歳：はやくも，従五位下に叙され，
本能寺の変・1582＝ 3歳：
賤ヶ岳の戦・1583＝ 4歳：元服，昇殿を許さる。従五位上，侍従になるなど，恵まれた環境で，自由闊達な性格に育ち，
全くの勉強嫌いで，遊びにかまけていたため，日蓮宗の日重上人に預けたところ，あっという間に，数巻の書物を暗誦してしまうという**_天才ぶりを発揮，**
秀吉太政大臣1586＝ 7歳：正五位。

刀狩海賊取締1588**＝ 9歳：**
・・・・・・1589＝10歳：右小弁。
秀吉全国統一1590＝11歳：
早くから，歌，書，茶の道に通じていただけでなく，古筆の鑑識にも長けていて，はじめ歌を教えていた古筆了佐にも教え，豊臣秀次から古筆姓を給わらせたという。

ﾙｿﾝ島通交・ 1594＝15歳：左少弁。豊臣秀吉によって，摂津上牧の地を宛行われる。
関白秀次事件1595＝16歳：正五位上，蔵人。**_早くも，中納言持明院基孝から，書法の伝授を受け，持明院流の作品も遺している。**

慶長の役・・1597**＝18歳：**
豊臣秀吉没・1598＝19歳：**_歌を学ぶべく，細川幽斎に師事して，禅学にも開眼すると，すぐに改宗。以後4年間，「耳底記」つける。**
前田利家没・1599＝20歳：従四位下，左中弁。従四位上，**_蔵人頭になり，**
関ヶ原の戦・1600＝21歳：正四位下から正四位上。今出川晴季らと，伏見に，**_関ヶ原の戦勝利直後の徳川家康を訪ねており，，**
朱印船制始・1601＝22歳：左宮城使。大徳寺などに出入り，
東本願寺創建1602＝23歳：福島正則が参内して右近衛少将に任ぜらた際，奉仕。八条宮(智仁親王)殿での蹴鞠に，幽斎らと参会。
阿国歌舞伎始1603＝24歳：とりわけ歌道は**_幽斎より古今伝授を許されて，二条派歌学を究める。家康が右大臣を辞し，子の秀忠に譲るにあたり，江戸に下向して，後陽成天皇の宣旨を伝える役をした際，家康から認められたらしい。**
糸割符法始・1604＝25歳：右大弁。この頃には，**_沢庵宗彭と出会い，その禅室を訪ねるようになる。**
徳川家康隠居1605＝26歳：近衛信歩の関白宣下にあたり，奉行になる。
江戸城完成・1606**＝27歳：_参議に任じられて公卿に列するが，**
家康駿府退隠1607＝28歳：松平秀忠未亡人鶴姫と結婚。
・・・・・・1608＝29歳：従三位。
島津琉球支配1609＝30歳：左大弁。**_猪熊事件(青年公卿7人と宮廷女房5人の度々の密会乱交)に連座，典侍も入っていたため，後陽成天皇の怒りは激しく，女房は即座に実家に禁錮，公卿は全員，官位を停められ蟄居を命じられる。**
琉球使始・・1610＝31歳：細川幽斎が死去し，追悼詞を贈る。**_天皇は徳川家康に，一同斬罪にするよう下命するが，**
山田長政渡航1611＝32歳：**＊家康は，公卿，女房とも遠島へ配流の処分を決定。今までの関係が功を奏してか，大徳寺実久とともに，赦されて，還任。後陽成天皇は譲位してしまう。践祚した後水尾天皇とは早くから付き合っていて，父上皇と仲の悪かった新天皇からも信頼され，公武間の連絡上重要な人物となった。**
ｷﾘｽﾄ教禁止・1612＝33歳：権中納言。
支倉常長渡欧1613＝34歳：**_正三位。**
大坂冬の陣・1614＝35歳：名古屋城主徳川義利上洛にあたり，他の公卿とともに，粟田口に出迎える。
大坂夏の陣・1615**＝36歳：**以心崇伝に書状。
徳川家康没・1616＝37歳：**_権大納言。この年家康から土地を賜り芸術村を開いた本阿弥光悦とも親交していて，書も光悦流に。**
吉原遊郭始・1617＝38歳：従二位。**＊家康の遺体の日光山移葬にあたり，勅使として供奉。この時，「東行記」「日光山紀行」，**
・・・・・・1618＝39歳：**_「あづまの道の記」を著しているが，「東行記」は，書作品の傑作とされている。**
菱垣廻船始・1619＝40歳：三条西実条と「伊勢物語」の講釈を行う。
秀忠娘入内・1620＝41歳：**_正二位に昇って以降，昇進は無いが，**
利根川付替始1621＝42歳：近衛信尋試筆の和歌を添削。妻が死去。
元和大殉教・1622＝43歳：帰依していた沢庵宗彭との和漢唱和数篇がある。
徳川家光将軍1623＝44歳：将軍家光の歌道指南役になる。
ｲｽﾊﾟﾆｱ断交・1624**＝45歳：**後水尾天皇皇女(女一宮)行始の御霊社参詣に供奉。
寛永寺創建・1625＝46歳：春日祭上卿。後水尾天皇に「伊勢物語」を進講。
人身売買禁止1626＝47歳：後水尾天皇の二条城行幸に供奉。
紫衣勅許無効1627＝48歳：賀茂伝奏。
・・・・・・1628＝49歳：源氏絵詞書を揮毫し，西洞院時慶へ遣わす。
紫衣事件・・1629＝50歳：前年賀茂社に奉納を企画した法華経を三嶋社に奉納。この時和歌を詠じてその序を作る。智仁親王が死去し，追悼の和歌を贈る。**＊紫衣事件で，師の沢庵が出羽に配流。それら幕府の圧力に抗して，後水尾天皇が譲位して以降，頻繁に江戸に下向。俵屋宗達とともに，いわゆる後水尾院サロンにつながる多くの文化人ネットワークの結び目の一人となり，書も，のちに「光廣流」と呼ばれる独自のスタイルを確立，**
寛永禁書令・1630＝51歳：禁裏御本の「西行物語絵巻」を借出し，本多富正のため，親交する俵屋宗達に描かせ，自ら詞書を書く。**_出羽で沢庵の教えを受けて京に戻った弟子の一絲文守と運命的出会いをし，以後，親交，**
糸割符拡大・1631＝52歳：後水尾院より，月次和歌会開催のことを仰せ出さる。
徳川秀忠没・1632＝53歳：東照大権現十七回忌。奉幣宣命の日時定が行われ，上卿を務める。この頃から，**_最晩年にあった"落語の祖"安楽庵策伝とも親交，策伝が遺した手控えの中で，「伊勢物語」のパロディ「仁勢物語」の作者に擬せられ，策伝にエロティックな狂歌を贈ったりするほど，相変わらずの自由奔放さを保っている。**
鎖国令Ⅰ・・1633**＝54歳：**勅使の一員として，増上寺での徳川秀忠一周忌法会に参列し納経。禁中での和歌会(題「雪中梅」)に参会。
鎖国令Ⅱ・・1634＝55歳：木下貞幹作の「太平頌」を上皇に献上。**_一絲文守のため，丹波に{桐江庵}を建てる。**
参勤交代始・1635＝56歳：左大臣二条康道らと江戸に下向し，将軍に歳首を賀す。**_下向の旅を「春の曙」に著す。**
東照宮完成・1636＝57歳：江戸で，元旦詠歌。後水尾院の院使として，完成した日光東照宮宝前に太刀を奉納。再び，江戸に下向。
島原の乱始・1637＝58歳：在府中，鳳林承章から，和歌試毫を示される。帰京に際し，将軍徳川家光から，時服，白銀の饒別。禁中での当座和歌会(題「夏月易明」)に詠進。再び春日祭上卿。
島原の乱終・1638＝59歳：仙洞御所での院和歌会始(題「鶯声一和琴」)に，読師を務めてまもなく，**_没した。**
「西行物語絵巻」は，光廣の奥書があることで，俵屋宗達作品で唯一制作年代の分かるものとなった。勅使として江戸にいた時，平将門の伝説を知り，帰京して天皇に「将門は朝敵に非ず」と奏上。これにより，将門は朝敵の汚名を返上したといわれる。

板橋区立美術館「烏丸光廣と俵屋宗達」展カタログ，Wikipedia，